



千葉県森林インストラクター会

会報 2005.7(No.13)

特集 第11回千葉県森林インストラクター会総会

平成17年4月30日(土) 船橋市中央公民館にて、第11回千葉県森林インストラクター会の定期総会が開催された。出席者は33名、委任状31名。議長に荻埜さん、書記に和波さん、平野さんを選出して、審議に入った。平成16年度の事業報告、決算報告、監査報告に続いて、平成17年度事業計画、予算案、規約改正の審議が行われた。次に、役員選出が行われて、正式に新年度の事業がスタートした。

《会長あいさつ》

町原会長から次のようなメッセージをいただきましたのでお伝えします(國安副会長)。

私の平素の行動方針として

- ・日本の森林の活性化を実現し、日本林業の再建をはかる心意気を常に持つ。
- ・実行に当っては、千葉県森林インストラクター会の自立を第一義とする。

以上を基本としてきました。現在療養中の身ですが、また皆さんと一緒に山へ行けることを楽しみに、リハビリに専念します のでよろしくをお願いします。

《國安副会長あいさつ》

森林インストラクターの目標ともいえる町原会長からのメッセージは、この会の基本的な目標でもあります。わが千葉県森林インストラクター会(FIC)は設立以来10年の節目を越え、会員も80名近く、多彩な人材を擁して大きな組織になってまいりました。昨年度は森林療法に対する取り組みをはじめ さまざまな難しい事業を、居住地域の分散、得意技・経歴等の多



様な条件下において、皆さんの総力を結集して乗り越えてきました。

今後FICの運営に当っては、増大する組織、間口のひろがる事業、変化の激しい社会事情等に即応できるよう、一層組織的な活動を心がける必要があります。また会員相互の情報交換、会の意思伝達などの手段としてメーリングリスト、ホームページの活用などもますます重要になります。

この総会では、組織改正、幹事交代など含め今後の取り組みを強化する案も審議して頂くことになっております。皆さんの建設的かつ活発なご論議をお願いします。

* * *

平成16年度の事業報告と平成17年度の事業計画を次に紹介します。なお、平成17年度から、國安哲郎会長、湯本信康副会長、小林正幸副会長、鳥海翔事務局長の新執行体制で事業に臨むこととなります。

平成 16 年度事業報告

		月日	人数	講師	テーマ
		月日	人数	話題提供者	話題の内容
もり こ ん		4/15	11	寺嶋	富津海岸造成・昔と今
		5/27	10	中野	復活? マガンの渡り
		6/17	8	湯上	野外活動での救急法
		7/15	8	佐山	森林療法への取り組み
		9/30	10		子供を対象とした森林活動についての事例研究
		10/28	18	森田	「森林と健康」アンケートの説明会
		11/25	11	上善・國安・廣	千葉県下植生調査報告
		2/17	9	畠・小林	ネイチャーゲームと森林活動
	3/17	13	御須 木村 湯上	東京都下森林ボランティア報告 熱帯林報告	
		月日	人数	チーフ	場所
野 外		4/4	中止	望月・平野	鋸山
		6/2	57	遠坂・小池	清和県民の森
		10/17	35	御須・寺嶋	東庄県民の森
		11/20	31	小林・吉田	F I C 君津の森
		2/8	中止	中野・今井	内浦山県民の森
		7/21 ~ 22	31	國安	太平洋型のブナ林とヒメシャラ
		8/30	中止	大沼・高橋	シラビソ、コメツガの原生林に行く
		9/22 ~ 29	33	菅野・湯本	ブナの原生林と高層湿原
		12/1	90	町原・相川	紅葉の東大演習林
	定期活動		本埜村滝野中学校		総合学習 里山観察会 里山学習林見回
		県上総林業試験地 FIC 君津の森 子ども自然教室 in 茂原			4/21,5/16,6/16,7/28,8/18,9/15,11/17,2/16,3/16 4/25,6/13,8/21,10/31,12/2,2/20
昼 講 座		4/06	35	湯本	巨樹と日本人
		4/13	34	湯本・國安	印旛の巨樹・古木探訪
		4/17	29	元岡	自前で面白天気予報
		5/12	31	澁谷	町中で楽しむ山の幸
		5/18	33	遠坂	森と川と海のつながり
		6/05	17	遠坂	小網代の森を歩く
		6/15	29	石井	植物の不思議 PART
		9/11	34	平尾	キノコそのすばらしき形と生態
		10/07	34	石井	種子の話
		10/14	35	関	バイオテクノロジーと身近な野菜・草花
		11/04	32	望月	唱歌・童謡と秋の自然
		11/18	34	國安・遠坂・望月	
		12//16	33	湯本・中野	佐倉城址の樹林を訪ねる
	01/17	19	町原 小林	やさしい光合成の話 竹で遊ぼう・・・楽器づくり	
入門編				月日	人数
		金曜コース		4/23,5/7,5/21,6/4	14
		土曜コース		4/24,5/8,5/22,5/29	6

	月日	依頼先	人数	内容
その 他	4/17、18	東大演習林	8	春季東大演習林公開日パトロール協力
	8/6	樹木医会他共催	15	子ども樹木博士認定事業、君津市久留里国有林
	8/21	樹木医会、宝典公民館他共催	5	子ども樹木博士認定事業、船橋市藤原市民の森
	8/28	印西市	4	草深の森で竹笛を作ろう
	4/6			森林療法内部打合せ
	4/26、9/5			森林療法泉自然公園現地研修会
	6/30	千葉県みどり推進課		森林療法総泉病院、リハビリセンター打合せ
	7/14～	千葉県みどり推進課		森林療法総泉病院（毎週12回）
	9/13	千葉県みどり推進課	97	森林療法リハビリセンター打合せ
	10/10～	千葉県みどり推進課	50	森林療法リハビリセンター、高次脳機能障害 10/24、11/7,21、12/5
	10/17～	千葉県みどり推進課		森林療法リハビリセンター、身体機能障害 11/14、28,12/12
	12/10	千葉県みどり推進課	9	森林療法研修会、木更津社会館保育園研修会
	12/14	千葉県みどり推進課		県庁にて報告会
	2/7	千葉県みどり推進課	9	森林療法研修会、木更津社会館保育園研修会
	3/19	千葉県みどり推進課	3	森林療法事業企画委員会
	3/23	千葉県みどり推進課	14	森林療法総泉病院報告会
	11/23,27 12/4	東大演習林	11	秋季東大演習林公開日パトロール協力
	11/14、 11/23、	助成金の申請 千葉市生涯学習センター 京大大学院医学研究科	4 35	IBM コミュニティー・グランツ、刈払い機購入 森を楽しむ講習会（11/21,28） 森林療法のアンケート調査（11/27、28,12/4）

平成 17 年度事業計画

1 森に親しむ野外講座

月日	目的地	テーマ	人数	担当者(チーフ)
4月	F I C の森	春の房総の森	45	小林・小池
6月	妙楽寺・大多喜県民の森	スダジイ極相林	45	望月・廣島
10月	鋸山	南房総・照葉樹の森	45	望月・遠坂
1月	内浦山県民の森	野鳥観察	45	吉田・望月
3月	元清澄山周辺	房総丘陵の森	45	和波・國安
7月	栃木県民の森界隈	冷温帯の森	45	遠坂・山田
8月	奥利根水源の森と至仏山	水源ブナ林と高山植物	33	菅野・湯本
9月	北八ヶ岳	シラビソ、コメツガの原生林	45	大沼・高橋
12/月上旬	特別講座 東大千葉演習林	房総の紅葉 狩りを満喫	90	相川、町原

2 森に親しむ講座 前期(昼の講座)

月日	テーマ	担当者(チーフ)
4/14	唱歌・童謡と春の自然	望月
4/21	日向界隈の里山を歩く	廣島
5/11	野鳥を通して自然を観る	富谷
6/02	森林と動物たちの暮らし	萩埜
6/11	なぜ日本の森は大切か	木村
6/23	入会慣行を今に活かす	湯本
7/07	植物のおもしろい話	小池

後期は6回予定

3 森に親しむ懇談会(もりこん)

森に関心のある一般市民と交流を兼ねた研鑽会

テーマを選定し、FIC 会員及び森林関係者が交流懇談し、会員の研鑽と会の活動展開に資する。

平成17年度は、以下の案から3~4回程度実施する。(担当:小池、萬實、寺嶋)

(1案)「房総の山のフィールドミュージアム」見学会

場所:清和県民の森

話題提供者:県立中央博物館 研究員

(2案)「タケノコ(マダケ)を食べながら里山を学ぶ」&「安全と救急」

~専門技術者による竹林管理の実地理論~

場所:大多喜県民の森

話題提供者:大多喜県民の森管理事務所長 技術士(特用林産)

森林インストラクター 元消

防庁職員

(3案)森林と樹木観察(「名誉森林インストラクター故山中寅文氏の語り」再考)

場所:FIC 君津の森&内山グリーン

話題提供者:森林インストラクター

(4案)身近な樹木観察

場所:千葉市都市緑化植物園

話題提供者:森林インストラクター

(5案)スライドショー&懇談

日本の森林・世界の森林、H17年度もりこんを振り返り、来年を語る

場所:市川公民館

話題提供者:会員のうち県外・国外の森林探訪者

(6案)北総の森林・林業

場所:山武町・富里市・八街市

話題提供者:県印旛農林振興センター普及担当職員

(7案)海岸林の歴史と自然

場所:九十九里海岸

話題提供者:森林インストラクター

4 総合学習事業

本埜村滝野中 里山活用の総合学習等m

5 F I C 君津の森

会独自のフィールドとして森林活動を行う

6 茂原子ども自然教室

環境教育を推進する活動

7 会員間の情報交換、情報伝達の徹底

定期機関紙の発行、ホームページの更新活動、メーリングリストによる緊密な連絡網の整備等

8 森林療法活動

千葉県内外の関連団体と一緒に活動を行い、森林療法の効果を客観的に評価できるデータを収集する

平成 17 年度新役員

役職	氏名(敬称略)	担当
会長	國安 哲郎	総括
副会長	湯本 信康	財務統括
"	小林 正幸	事業統括 / FIC 君津の森
事務局長	鳥海 翔	事務統括 / ML 管理
幹事	寺嶋 嘉春	もりこん・研修
"	遠坂 弘	全般(昼の講座)
"	鈴木 康一	HP 管理
"	佐山 裕子	森林療法
"	今井しのぶ	会報編集
"	木村 豊	野外講座(県外)
"	吉埜 拓史	野外講座(県内)
監事	竹内 進	
監事	斎藤 陽子	
顧問	町原 亨	

平成 17 年度の方針

5月17日(火) 船橋市市民活動サポートセンターで、初めての幹事会が開催されました。その際に、新年度の方針の確認を行いました。その骨子を紹介します。

今年度の方針

豊かな森林を後世に引き継ぐ。

「森林」「千葉」を軸にして幅広い活動を展開する

情報の共有と活用を徹底する

各事業を積極的に展開する。さらに、子どもや親子向けのインストラクトにも積極的に挑戦する

財政面での整備を行う



盛り上がった！ 懇親会

4月30日(土)の総会の後は、おなじみの加賀屋で懇親会。ここでも大いに盛り上がりました。

活動報告 (2005.4~6)

総合学習事業 (担当幹事：國安)

滝野中学校里山学習林見回り

日時 平成 17 年 3 月 28 日(月) 10:00 ~ 13:00 雨

場所 滝野中学校学習林、同校会議室

参加者 中学校菅原先生、森林インストラクター(講師)國安・遠坂・中野・湯本(50音順、敬称略)

現地見回り

・中学校は春休み、先生に挨拶のうえインストラクター4名傘をさして「春の里山観察会」コースを見回る。

・今年は昨年に比べ春の動きが遅いようだ。水路にはニホンアカガエル、アズマヒキガエルのオタマジャクシ、田んぼは既に耕運機がかけられており、脇にタネツケバナ、ナズナ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、オオイヌノフグリ、オランダミミナグサ、タガラシなどの花が見られる程度。

・学習林内は、里山学習の一環として、生徒たちが林内清掃を行ったあとで、落枝、刈払いササなどが林縁に片付けられており、また、2年生に引き続き1年生も「自分の木」をテープで印しをつけ、4月の環境(里山)学習に備えるなど、教師の指導による活動のあとが見られた。

・昨年はもう動き出していた木々のコブシやサクラの花芽はまだ硬く、花といえばウグイスカグラと日向にぼつりとタチツボスミレ、根づいたドングリが殻を脱ぎはじめています。

・それでもウグイスが下手ながら鳴き始め、エナガは盛んにさえずり、ツグミも声を出していた。観察会の4月9日までには、もっと子どもたちの喜ぶ生物の動きがありますようにと願う。(当日は、遠坂氏提案の「目・耳・鼻・口・手をつかって見つけよう」という観察用メモを手交の予定)

打合せ

・学校会議室で菅原先生と、環境(里山)学習の

日程、学習内容について打ち合わせる。

・環境学習 17 年度前期日程

4 月 12 日 (火) 1 年 A 組、1 年 B 組 午前中
 4 月 13 日 (水) 1 年 C 組、本埜村校長会研修案
 内 午前中
 4 月 15 日 (金) 2 年 A 組、2 年 B 組 午前中
 5 月 31 日 (火) 3 年 A・B・C 組 午前・午後
 ・学習内容

1 年生 山の恵み竹笛づくりに挑戦 (鋸・小刀用意) 里山観察中心。

2 年生 「自分の木」樹種確認・観察、枝のフレームづくり材料集め。

3 年生 里山観察、樹木の二酸化炭素吸収量調べなど。

・新年度「特別非常勤講師」任用手続き

所定様式の身元申告書、健康診断書を 4 月 5 日までに学校へ提出するよう要請。(報告:國安)

滝野「春の里山観察会」結果報告

日 時 平成 17 年 4 月 9 日 (土) 9:00 ~ 11:30 晴れ

場 所 本埜村立 (滝野) 小中学校学習林とその周辺

主 催 本埜村教育委員会 (生涯学習課) 本埜村里山の会

参加者 一般参加者 18 名 (うち 4 歳児 1 名、小学児童 1 ~ 6 年生 9 名) 里山の会青山会長ほか 5 名、教育委員会生涯学習課長・押田主事ほか 2 名、講師 (森林インストラクター) 國安・遠坂・中野・湯本、FIC (オブザーバー) 萬實 計 33 名 (敬称略)

実施内容

・本埜村教育委員会主催平成 17 年度「わくわくふるさと探検隊」の「里山観察会」が、学校行事の多忙をきわめる春季にはじめて行われた。当日は、ソメイヨシノ満開の好天に恵まれ、リピーターの多い子どもたちの元気な声がいつそう春の行事を盛り上げた。

・主催者挨拶、主催側メンバー自己紹介の後、子ども中心に 2 組にわかれ、講師 2 名ずつに FIC 萬實氏、里山の会から青山会長 (前滝野中学校長) やメンバーの方が付き添い、五感メモ (遠

坂講師考案) を携え、里山の農道から学習林、田んぼ、あぜ道、草地広場の春を楽しんだ。

・農道わきや畦には、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、オオイヌノフグリ、ハコベ、タネツケバナ、オランダミミナグサ、ツクシ、キュウリグサなど定番の花盛り。子どもの目線で地面にはりつくキランソウの花を発見、小さな虫の動きに反応する子どもたちの観察眼の鋭さにまた感心させられる。

・春の蝶も舞いはじめ、キタテハやめずらしいツマキチョウも。ダンゴムシ、ゴミムシの仲間、カナヘビなど子どもは次々に見つける。田んぼ脇の水路の止水には、ニホンアカガエルのオタマジャクシが大きくなり、アズマヒキガエルの黒いオタマジャクシはまだ小さく無数。ドジョウ、メダカなど動き活発。アマガエルは背中の色を変えているものもいて、子どもにはいつも人気。



・学習林の南斜面には、タチツボスミレやニオイタチツボスミレが満開。ナルコユリ、ミヤマ

ナルコユリも葉を出す。

・樹木ではコブシの花が散り始め、オオシマザクラは場所により八分咲き、ヤマザクラ、ウワミズザクラの動きは鈍い。ウグイスカグラの花がまだ残り、アケビは花つける。ハナイカダの葉が開き始めて小さな花芽が見え、中学生徒が「自分の木」として名札をつけたものは殆んど実をつける雌木。

・キノコは、ゴンズイの枯木についたアラゲククラゲ。カチカチに乾いていたが、子どもたちはお母さんへのお土産と言って少しずつ持ち帰る。カワラタケ、サルノコシカケも乾燥著しい。

・集合場所への帰途、草地斜面のアマナ群生地では朝目立たなかった花がようやく開き始めていた。暖かい陽ざしの道を戻った子どもが、カキ氷食べたいね、と言うほどのお天気であった。

・主催者から今年度は、春夏秋冬 4 回の里山観察会を開催する予定で、夏は昨年同様 6 月を予

定していると発表された。小学生主体のこのような行事を積み重ね、今後学校行事にまで結びつくことを願うものである。(報告:國安)

滝野中学校「環境(里山)学習」17年度前期

本埜村立滝野中学校の平成17年度環境学習計画(前期)にもとづく森林インストラクター(特別非常勤講師)による里山学習指導を、以下4月12日から3日間、1・2年生の全生徒を対象に行った。(3年生は、5月31日)

この学習指導は平成14年度から引き続き行われているもので、FICからの講師は國安・遠坂・中野・湯本、学校側は校長の石毛先生はじめ、新任教頭の河邊先生(理科専攻)、環境担当の菅原先生、各学年担任教師も同行指導され、このごろ旗色の悪い総合的学習に対し、不変の応援体制は心強かった。

今回学習のテーマは、1年生がはじめての里山観察、森の恵み“竹笛作り”体験、2年生は1年生のときに選んだ「自分の樹」の確認・観察(樹種名、特徴)とネイチャークラフト材料集めを中心にした。

【学習指導の内容】

17.4.12(火)(8:40~10:20)1年生A組(25名)(10:30~12:20)1年生B組(26名)各3班編成

校庭集合、各班(8~9名)担当の講師(1班國安・2班中野・3班遠坂)紹介あいさつ。今日のポイント、安全など担任教師から注意。メモ用のバインダー、観察用のルーペ配布。曇天に気温も低く、ジャージー姿の生徒ははじめ寒い寒いと意気上がり、学習林はあたたかいよ、と励まして走り足に移動。

この春は、全般に芽生えも遅く、対岸に見る学習林のヤマザクラ、オオシマザクラは八分咲き。途中水路のドジョウなども動きが悪く、アカガエルのオタマジャクシが少しだけ。宿題のツクシとスギナを見ては納得。

林内はさすがに穏やか。アケビの雌雄花、ゼンマイの孢子葉と栄養葉、ハナイカダ若葉のつぼみ(雌雄異株)などの観察。湿度も高くアラゲキクラゲが大きくなり、おそろおそろ持ち帰ったのは代表の生徒。色変わりのアマガエルを

捕まえてはしゃぐのは男女・学年共通。オオホシカメムシの成虫も見つける。

現地採取・作成を予定したアズマネザサの竹笛作りは、時間がなく講師の模範実技と生徒代表による作成に終わる。それでも見事に鳴らすことができ、全員拍手。みんな口々に今日は来て良かったと喜ぶ。

17.4.13(水)(10:30~12:10)1年生C組(27名)4班編成(各6~7名)講師4名、各組担任教師同行

朝から小雨、校内授業も準備していたが、直前に雨が止み思い切って学習林へ出かけることにする。濡れた林内は草花の観察には不向き。それでも、ニオイタチツボスミレ、ヒサカキの花のおいを確かめる。雨のおかげでアラゲキクラゲ、タマキクラゲが沢山、お土産に枯れ枝のまま持ち帰る生徒も。アマガエルは連日の評判。

今日は少し時間に余裕があったので、全員で竹笛づくりに取り組む。ノコギリ、小刀は学校で用意し、それぞれ実技指導。生徒の多くは鋸の使い方はおろか小刀で削る動作も初めてのようで、作業は遅々として進まず、ほぼ2割程度の生徒が鳴らしたところでタイムアップ。未完材料をたずさえ、プープー鳴らしながら帰校した。

17.4.15(金)(8:40~10:20)2年生A組(38名)(10:30~12:20)2年生B組(37名)各4班(9~10名)編成講師4名、各組担任教師同行

先日とは大違い20にもなる暖かい日。途中水路のオタマジャクシ(ヒキガエル、アカガエル)、メダカ、ドジョウなど元気に動き回る。2年生は学習林に直行してまず「自分の樹」探し。

「自分の樹」は、理科授業の中で各人テープを巻きマークしたもの。見失ってしまう者もいるが、それぞれ選んだときの思い入れがあって、ほとんど探し出す。講師による樹種同定、特徴などの説明の後、観察を行う。

次は里山クラフト材料の小枝(枯木)・つる・木の実を各班別に集める。季節柄木の実集めには苦労する。それらの合間、つぎつぎに動く小さな虫を見つけては、これ何だろうと矢継ぎ早

の質問。帰ってから、それが珍しいアカスジキンカメムシの幼虫のようで、小さなクモはミスジハエトリではないか、などがわかる。

2年生になるとクラスによって雰囲気も異なるが、総じて学習態度は良好であった。これからも恵まれた環境にある学習林に何回も足を運んで観察を続けるよう要請し、再会を約した。

(報告：國安)

・担当窓口が國安から中野に変わったことの説明(國安が会長に就任したため)。

・辞令交付 國安・遠坂・湯本・中野に本埜村教育委員会から特別非常勤講師、千葉県教育委員会教育長から非常勤職員の辞令をいただく。(私は初めてのことで驚き、家に帰って妻にみせたら「すごいね!」といわれました。)

(報告：中野)

滝野中学校里山学習林見回り

日時 平成17年5月26日(木) 10:00~13:30 晴れ

場所 滝野中学校学習林、滝野中学校校庭

参加者 中学校河邊教頭・菅原先生、森林インストラクター國安・湯本・中野

現地見回り

・青葉が生い茂り、林床に木漏れ日の射す学習林をゆっくり回る。春の花もキンランなどを最後に一段落して入梅・夏を待つばかりといった様子だった。

・目に付いた草木など マムシグサ、フタリシズカ、ナルコユリ、ミヤマナルコユリ、小さな実を付けたチゴユリの群落、落花したキンラン、まだ実の小さいハナイカダ、キクラゲ、エサキモンツキカメムシなど。フタリシオズカは1~3つの花まであって、3本花がついているのはかしまし娘のほうが合っているのではとの意見も。タチツボスミレの茎が立ってきた。ミヤマナルコユリの小群落がちょうど花盛りで、ナルコユリとの花のつき方や葉の大きさなどの違いをゆっくり観察。

・去年はたくさん咲いたエゴノキ広場のエゴノキに殆ど花がなく、みんな首をかしげる。

・学習林までの小川沿い ヒガシヤマトンボ、アオモンイトトンボ。教頭先生が川に入り、網で掬ったのは、オニヤンマのヤゴ、蜷、カワニナ、エビ、トヨノボリなど。畦道の細い水路にはスギナとイヌスギナが混じって群生、イヌスギナの穂が茎の先端に付いていてその違いが一目瞭然。

打ち合わせ

・学校に戻り、菅原先生と5月31日の3年生3クラスの環境学習について打合せ。

滝野中学校「環境(里山)学習」17年度前期3年生

本埜村立滝野中学校の平成17年度環境学習(前期)にもとづく森林インストラクター(特別非常勤講師)による里山学習指導を5月31日(火)3年生を対象に行った。すでに実施した4月12・13・15日の1、2年生に続くものである。今回の学習テーマは1年生の時に選んだ「自分の樹」をインストラクターと共に再確認すること(間違った樹木名の名札が散見されたため)。「自分の樹」の胸高直径を計り、授業で二酸化炭素の貯蓄量を計算、樹の役割の一つを学習することに役立てることだった。

実施報告 17.5.31(火)8:40~15:40

3年生A組(26名)(8:40~10:10)

3年生B組(25名)(10:40~12:10)

3年生C組(28名)(13:55~15:25)

班編成 各組を4班(5~9名)に編成(1班國安・2班湯本・3班中野・4遠坂)

校庭に集合、講師紹介・挨拶・学習林見回りの目的説明。担当教師からメモ用バインダー、胸高直径を計るテープ、ハサミなどを手渡す。寒くて小雨がちの天候。

学習林はもうすっかり深緑に覆われ様相が変わっていたが、生徒は熱心に「自分の樹」を探した。今回の3年生は1年の時から学習林での環境学習を行っており、講師と顔見知りのせいも、まとまって講師の話聞いていた。

打ち合わせ

環境学習終了後会議室で川邊教頭・菅原先生(環境学習担当)と本日の反省を含めて今後の打ち合わせを行う。その中で菅原先生から特筆すべき報告があった。

「2学期(秋)から本学の中学2年生と隣接の小学校(本埜村立滝野小学校)3年生と一緒に

里山観察を行うことで小学校と合意した」

國安講師がかねてから小学生からの里山観察が大切だと力説してきたことに、菅原先生が応えてくれたものである。小学生・中学生一緒になったの里山学習はおそらく前例がないのではないか。今後の展開が楽しみである。

ムクドリの集団抗議

学習の始まる前、学校の正門前でけたたましいムクドリの集団の鳴き声を聞く。巢立ったばかりのムクドリの雛を啜えたカラスをムクドリ100羽くらいが取り囲みながら凄い勢いで追っかけていた。カラスも少したじろぐ様子だったが、啜えたまま舞い上がる。それを遠くまで数十羽が接近してカラスをつつきながら追いかける。次第に遠くなり、最後に3羽のムクドリだけが残ってしつこくカラスを追うが、これもやがて引き離されてしまう。野鳥の世界の厳しい現実と情愛を垣間見た思い。最後まで雛を取り戻そうとしたのは、両親か親戚だったのだろうとインストラクター4人は語り合った。

(報告：中野)

滝野中学学習林見回りの報告

実施日 平成17年6月10日 午前10時～12時
場 所 滝野中学学習林および周辺の田んぼ、草原
参加者 國安、遠坂、湯本、中野各森林インストラクター

毎月一回行っている滝野中の学習林見回りは、今回は6月18日(土)の本埜村里山観察会の下見を兼ねて実施した。

時々小雨が降る梅雨入りを思わせる日だった。学習林は緑濃く鬱蒼としていたが、集合場所のラーバン・ファームから学習林への田んぼや原っぱは夏の花が咲き始め、春に咲いた花が赤い実をつけ始めるなど一週間後の里山観察会に充分楽しめそうな素材がそろっていることを4人で確認する。

学習林内ではアカネスミレの葉が大きくなり、春に探して見つからなかったのがうそのよう。ツタウルシとナツツタが一本の木(杉だったか)

に並んで這っているのを観察できた。ちょっと見た目には区別がつかないほどだ(ツタウルシ

ヒゲでくつつく、ノギなし。ナツツタ 吸盤でくつつく、ノギあり)。並んでいるのは珍しいのだが、はたして子供たちが興味を抱いてくれるかについてはみんな自信がなかった。ハナイカダの実が大きくなってきたがまだ緑色。

林縁沿いの小道では榎の葉にエノキトガリタマフシ、桜の木にサクラハチヂミフシなど虫こぶが目についた。コヒルガオを葉の形でヒルガオと識別する。カタバミの実にちょっと触っただけで種が弾け飛んだ。このカタバミの葉で10円玉を磨くと綺麗になるそう。クマミズキの花芽がいっぱい付いていた、18日には咲くだろうか。イボタやガマズミ、ウツギが白い花をつけている。ニワトコの小さな実が赤くなり、ヤマグワは鮮やかな赤、真っ黒など食べごろ。口に入れたら、一瞬幼い頃の記憶がよみがえった。

野鳥たち：ホオジロ、キジ、ウグイス、コゲラ、エナガ、ヒバリ、メジロ、セッカ、ツバメ、ヒヨドリ、スズメ、ハシブトガラス

[付記] 終了後、全国森林インストラクター会を通してCONEから印旛沼湖畔の「野鳥の森」(佐倉市飯野)のことで國安会長宛に問い合わせがあったので、4人で実地見学する。

本埜村夏の里山観察会実施報告

実施日 平成17年6月18日 午前9時～11時
場 所 滝野中学校里山学習林
参加者 27名(一般参加13、教育委員会3、里山の会7、講師4)
主催 本埜村教育委員会(担当押田先生)
講師 森林インストラクター4名(國安・遠坂・湯本・中野)

梅雨の晴れ間との天気予報が外れ、小雨が降りしきる中、子供たちを2班に分けて実施する。今回は、集合場所の滝野ラーバンファーム駐車場から学習林までの小道沿いの林縁環境を主な観察場所とした。

遠坂講師のプリントした「雑木林の葉っぱ図鑑」と実物の葉の形を照合しながら、木の名前や虫こぶ・虫・花の仕組みなどの生態を観察する。はじめは子供たちも熱心に講師の説明に聞き入っていたが、途中で昆虫やザリガニ捕りなどに夢中になる場面もあった。また、カマキリの幼虫やミミズなどを平気で手で掴む子供が多いのにもびっくりする。

この里山観察会は年4回行われているが、参加する小学生や大人などメンバーがやや固定化する傾向がみられる。里山の自然になじみの少ない小学生や大人も大勢参加するといいなと聞いた。(報告：中野)



昼の講座 (事務局：和波)

唱歌・童謡と春の自然

実施日時 平成17年4月14日(木)
午前10時から12時まで
会場 市川市市民会館第2会議室
受講者数 34名
講師名 望月力智
庶務担当 小橋、和波、佐山、海野、遠坂

【概要】

はじめに

・導入曲として合唱組曲「蔵王」より「早春」を、CD演奏。

童謡・唱歌と秋の自然を考えるにあたって
ア．音楽としてその抒情を楽しむ。

イ．童謡・唱歌が生まれた時代的背景や音楽文化(童謡・大衆音楽など)の変化を考える。

ウ．歌詞に歌われている自然や自然環境の変化について考える。

エ．歌詞に歌われているくらしの様子(人と森との関わり、子どもの環境など)について考える。

童謡・唱歌が生まれた背景の紹介

ア．わらべ歌の世界

イ．「文部唱歌」の誕生

ウ．「童謡」の誕生

本論

(1) 春が来た

「朧月夜」(リコーダーアンサンブル)のCD演奏。

春の訪れをテーマにした「春が来た」「春の小川」「朧月夜」の歌詞について紹介。

(2) 春の自然と日本人とのかかわり

童謡「うぐいす」を全員で合唱のあと、ウグイスと日本人とのかかわり、語源、生態などについて紹介。

写真や録音テープにより、身近な野鳥とそのさえずりなどについて紹介。

「さくらさくら」CD演奏のあと、サクラと日本人とのかかわり、語源、花見の起源などについて紹介。

「ちょうちょ」の曲の背景、モンシロチョウなどの生態、日本人とのかかわりなどについて紹介。

(3) 自然のしくみ・花

童謡「ぶんぶんぶん」で簡単なシンキングゲーム

ビデオにより、花の受粉のしくみについて紹介。

(4) 新緑の季節に向けて

「野ばら」(三木露風作詞、山田耕筰作曲)

「酸模(すかんぼ)の咲く頃」のCD演奏と、曲の背景について紹介。(報告：望月)

日向界隈の里山を歩く

実施日時 平成17年4月21日(木) 10:00~14:30 晴れ

実施場所 山武町 JR日向駅界隈

受講者数 29名

講師 広嶋真知子

アシスタント 遠坂弘、海野知子、佐山裕子、
和波牧子

オブザーブ 小橋一民

【実施概要】

(1) 『里山』の概念について確認

・江戸時代から、限られた地域で使われていたことば。

・昭和30年代に四手井綱英先生(京大名誉教授)によって使われ始めたことば。

・近年、自然保護の観点から、多く使われるようになったことば。

解釈はいろいろあり、四手井先生が考えておられる概念とは異なる概念が広まっていると思われる。人が暮らし、生物も共存できる空間であることを解説。

(2) 賀茂神社の大杉

樹齢500年を越すとされる御神木を見ながら、鎮守の森について考える。

鎮守の森は、古くから人々の生活の中で大切に守られてきた、聖なる空間で、本来、その場所にあるべき自然をうかがい知ることができる場所であることを解説。

(3) 水を張った谷津田の風景

里山を構成する要素の一つとされる風景に注目。下見の折(4/1)には見られなかったオタマジャクシに季節の移ろいが感じられる。

(3) 森 教育の森見学(『森』は地名)

教育の森のスギを見学しながら、サンブスギ、山武杉、植栽林のことなどを解説。スギ、ヒノキ、サワラ、アスナロの違いを確認。

(4) 元出光村で昼食後、午後のコースへ。

スギを中心にした植栽林の中を歩きながら、管理の仕方によって異なる人工林の姿を見る。十分な手入れのされた林とバブル期に売却され、放置された林が対峙した場所があり、その違いを確認。(林内の明るさ、下草の様子、木の姿など)

(5) 若宮八幡宮で趣の異なる鎮守の森を見る。

境内に植えられたクスノキ、コウヨウザン、ケヤキが異色の森を構成。

(6) 日向駅14:30到着 解散

4月1日下見の折には木本、草本共に、花は

ほとんど確認できなかったが、本番では多くの植物の開花を確認することができた。次のような話題に歓声があがっていた模様。

・アケビ、ミツバアケビの花の比較と雌雄異花という話題。

・カラスノエンドウ、スズメノエンドウの比較。カラスノエンドウ(白花)の発見。

・ホタルブクロ、チゴユリ、ホウチャクソウ、ニリンソウなどの山野草の話。

・ウラシマソウの花の雌雄、性転換の話題。

・植物における雄と雌の話(スギ、ヒノキ、アオキなど)

【参加者の声】

・ヒノキとサワラは卒業できそうかな。(1班男性)

・一人では来られない場所で、良かった。(2班女性)

・午後の林のきれいだったこと……。絶対、あのコースははずせませんね。(5班女性)

素直に、お褒めのことばと理解して、一日を終える。

【反省】

・7*₀程度のコースであったが、行程として、少し長すぎるかと思われた。公共の乗り物での集合・解散という条件のなかで、コースの設定に課題が残った。

(報告: 広畠)

森林と動物たちのくらし

実施 : 2005年6月2日(木)10時? 14時

会場 : 上野動物園

受講者数 : 29名

講師 : 萩埜恵子、小泉祐里(上野動物園解説員)

庶務担当 : 佐山、和波、遠坂

オブザーブ : 國安、中野、増田

【概要】

午前(10時? 12時半)は、2班に分かれ、上野動物園東園領域の動物を、萩埜および小泉の説明に従って見て回った。観察のポイントは、それぞれの動物の環境に合わせた身体づくりや暮らし方のくふうを確認することである。

観察した動物種は、いずれも森林に関係するが、動物園の事情から日本の森林に生息するものばかりではなかったが、形態の特徴からわかる基本的なルールは同じであるので、分布する地域は、特に限定しなかった。

観察した主な動物種 ジャイアントパンダ・エゾシカ・アビシニアコロブス・アジアゾウ・フクロウ類・スマトラトラ・ニシローランドゴリラ・ホッキョクグマ・ニホンザル・カナダヤマアラシなど（比較のため森林動物でないものもある）。

午後（13時？14時）は、室内でネズミの観察実験とまとめを行った。

午前中に動物の暮らす環境とそれに合った身体づくりについて観察したが、その点をもう少し詳しく検証する目的で、野ネズミとして代表的なもの3種（アカネズミ、ヒメネズミ、ハタネズミ）を取り上げた。いずれも、日本の森では広く分布する種類だが、姿を見ることは難しい動物であるため、この機会に親しんでもらうこともねらいである。

3種のネズミをプラスチックケースに入れ、それぞれ眼球の大きさ、耳の形や動かし方、ひげの動かし方、足の大きさ、尾の長さなどの違いを観察し、その違いが、アカネズミは地上・ヒメネズミは樹上・ハタネズミは草原の地中と、主な活動の場の違いから生まれていることを確認した。

また、3種のネズミの木登り実験を行い、木登りの得手不得手が、しっぽの長さや後ろ足の大きさとどう関係しているかなどを、間近に確認した。90cm水槽を縦に置き、中に枝を合わせ、開閉できるアクリル板で前面を塞ぎ観察槽とした。

【まとめと反省】

動物園は、人工的に動物を飼育・展示している施設であるから、自然での動物の暮らし方とは条件が違うが、そのかわり、自然ではめったに見ることのできない動物を間近に観察することができる。その利点を活かして、大きさ、色、音、鳴き声、気配、環境に合った形態の特徴、個体間の関わりなどを確認することが

でき、また、意識を持って観ることで観察力を養う訓練の場にもなり得ると考えている。

今回、午前中には、上記下線のようなポイントを『森林の動物』を切り口に確認し実感してもらうことをねらいとした。

また、ネズミの観察は、環境・活動の場に合わせた工夫されている動物の身体を、より具体的にわかってもらう1例として取り上げた。

受講者の方々は、自然に対する興味が深く、観察に対する集中力もあり、何よりも素直な好奇心の塊といったところが、こちらの気持ちを盛り上げてくださり、やりがいがあった。

ネズミについては、隠れた目的として、通常嫌われ者の彼らの真の魅力を感じてもらうことで、そのねらいも達せられたと思う。

受講者の熱意に、つい欲張って、プログラム内容が盛りだくさんになり、あわただしい進行になってしまったことが、反省点として残る。

（報告：荻埜）

なぜ、日本の森は大切なのか

日時：6月11日午前10時～12時

会場：市川市市民会館会議室

受講者：24名

講師：木村 豊

アシスタント：海野、小橋、佐山、遠坂

オブザーバー：湯本

（概要）限られた時間のなかで広く浅く大きくとらえることを主眼に説明しました。

1 はじめに

日本の森、世界の森について いろいろな数字で説明。

・森林率（国土面積に対する森林面積の比率）について

- ・一人あたりの森林面積はどうなっているのか
- ・日本の森林面積の内容はどうなっているのか
- ・日本の森林蓄積はどうなっているのか

2 森林と人間の関わりについて。（参考図書・森の日本文化・縄文から未来へ 安田喜憲 著）

地理的な軸として 日本と西洋を比較しながら 時間的な軸として 縄文時代（今からおよそ1万3000年前）から現在に至るまで

地理的広がりと時間の経過のなかで森林と人間の関わりを考える。

農耕文化の巨大な二つの潮流

・草原の農耕文化、森の農耕文化について説明。

共生と循環の思想の原点

・縄文時代以来の森の文化の伝統について説明。

森の民と家畜の民 ヨーロッパの森と日本の森について説明。

自然 - 人間循環系の森の文明について説明。

3 おわりに

未来の子孫のために (参考図書・森の日本文化・縄文から未来へ 安田喜憲 著)

・今日、国土の60%以上が森で覆われているのは、山が険しく、降水量が多いためだけだと思っている人が多い。しかし、それは大きなまちがいで、国土の大半が深い森に覆われている背景には、森を愛し、森と調和的に生きることを身につけた、遠い私達の祖先の叡智によるところが大きい。

・今、私達は、日本の森は1万年以上にわたる遠い祖先からの、現代への貴重な遺産であることを認識すべきである。そして、現代を生きる私達には、この1万年以上に わたって受け継がれてきた、森の民の遺産を未来の子孫のために守り、継承していく義務がある。

なぜ、日本の森は大切なのか。

・日本人の奥底にある森の信仰

それは、縄文時代の信仰の基本的な二つの考え方 『平等と再生』

第1点は、『生きとし生けるものは、みんな平等であり、同じ生命である』

第2点は、『死んでも必ず再生してくるといふ、生死の循環の考え方です』

つまり、自然というものは、永遠の循環であるという考え方。

これに対して、『死んでしまったらおしまいだ、生きていうちにできるだけ楽しいことをやろう。金を儲けよう』こういう考え方が、近代主義的世界観である。

・まとめますと、『生きとし生けるものはすべて、同じ生命である。とくに、その生命の信仰の中心は木である。そして、生命はみんな死んでまた蘇る。死んであの世にいったらまた帰ってくる、

そういう循環を繰り返している。それは自然の姿でもある。』

・弥生時代以降の水田稲作文化のなかで、

『^{さんせんそうもくしゅかいじょうぶつ}山川草木悉皆成仏』という考え方が生まれた。

それは人間ばかりでなく、動物や植物、さらには山や川にまで仏性があるから、すべて成仏できるのだという共生と循環の考え方である。

・これらの考え方は、日本人が、縄文の森の民の時代より、自然への畏敬の念を抱き続けてきたことから、生まれてきたのである。言い換えれば、日本の森こそが、日本人の心を育ててきたのであり、日本の森が、日本人の魂のふるさとはないかと、考えられる。

・しかしながら、このような、考え方は、とっくの昔に、人類(とくに先進工業国)が精算した考え方のように思われていますが、むしろ、このような考え方こそ人類が直面している地球環境破壊の問題の解決に役立つ考えではないか。

たしかに、現在の主流の考え方になっている近代思想とは違う。

・その思想とは、世界の中心に人間の自我をおき、自然をその自我に対立するもの(客観)と考へ、その自然の科学的法則を明らかにすることにより、その自然を支配し、人間の生活を豊かにすることを文明の進歩と考える思想である。・しかし、いまや、人類の自然征服は自然破壊を招き、人類は、自分が生きていくに必要な自然環境を失いつつあるように思われる。

こういう状況のなかで、いま必要なのは、人間中心の世界観への批判であり、人間が自然のあらゆるもの、動物や植物や、あるいは山や川とも共生していく思想なのである。

(報告:木村)

その他に下記の図書を参考にしました。

森の思想が人類を救う、梅原 猛 1991年小学館

共生と循環の哲学 永遠を生きる、梅原 猛小学館

森林と日本人 森の心に迫る、北村昌美 1995年小学館

森林の荒廃と文明の盛衰、安田喜憲 1988年思索社

講座 文明と環境 第9巻 森と文明、菅原聡 安田喜憲編

森の思考 砂漠の思考、鈴木秀夫 1978年 NHKブックス

ほか、NHK人間大学「文明と森」1994年 安田喜憲、森林の百科事典、新聞資料等

17年度後期昼の講座企画会議報告

実施日時 17・6・23(木) 13:00~15:00

会場 市川市中央公民館

出席者 國安・小林・湯本・小池・澁谷・中野・高村・和波・海野・小橋・遠坂

討議に先立ち国会会長から特別近況報告がありました。「当会の組織的取組は全国一で各方面からの取材申込みも多い。直近では江戸川小学校5年28名の林間学校事前学習講師依頼や東大演習林一般公開講座への講師依頼があり今後も要請が多くなると予測されるので各位の協力をお願いする。」

議題1 17年度後期昼の講座プログラム検討
100回記念講座について

17年度前期昼の講座は7月7日小池講師「植物の面白い話」を以って終了予定ですが平成9年9月12日開講から数えて99回目(含む特別講座1回)に当たります。100回目を迎えるに当たり記念イベントを実施するか否かについて検討されましたが論議が煮詰まりませんでした。

下記の通り17年度後期講座のプログラムが決まりました。野外講座ご担当者には日程の重複がなきよう配慮願います。

(講座名/講師/実施日/会場)

名前の由来から野草を識る 中野達也

10月6日(木) 市川市市民会館

我孫子の巨樹・古木探訪 湯本信康

10月20日(木) 我孫子市内

大都会の森・目黒自然教育園 和波牧子

11月10日(木) 目黒自然教育園

地図を開いてみよう 望月力智

11月17日(木) 泉自然公園

植物と虫のつながり(仮題) 関 隆夫

12月8日(木) 市川市市民会館

門松づくり 小林正幸 12月22日(木)

市川市市民会館

註 1・5 は座学 10:00~12:00

6 は室内工作 10:00~15:00・・・

材料費1000円

2 は常磐線天王台駅北口に10:00集合、

野外実習

3 は目黒自然教育園入り口に10:00集合、野外実習

4 は泉自然公園管理事務所前に10:00集合、野外実習

議題2 18年度以降候補講座の検討

中期展望のもと約20講座が候補としてリストアップされました。詳細は省略。

議題3 その他

実施会場の地域分散化が話題となり幹事会でも検討することに。また パワー・ポイントが欲しいとの意見も出ました。

(報告:遠坂 弘)

野外講座 (担当幹事:木村・吉埜)

平成17年度第1回実地報告

~君津の森 花逍遥の会~

日時: 平成17年4月3日(日)

場所: 君津の森 内山グリーンセンター

交通: 団地交通バス送迎用2台

参加者: 56名 当日キャンセル3名

スタッフ: (チーフ)小池、小林 (アシスタント)遠坂、和波、増田、山口

(オブザーバー)木村、森池、桐山

*テーマ: 房総に残る山桜を訪ね里山を学ぶ。英国庭園を訪ね、西洋の園芸技法を学ぶ。

実地内容: 1)内山グリーンセンター散策はやまざくらの尾根道。大コナラの道。マグノリア小道。英国記念庭園。2)君津の森

*数日前の天気予報は外れ快晴、内山グリーンセンターよりの展望は180度絶景となる。

6班に別け、山桜の尾根道へ向かう。

(散る桜、残るさくらも、散るさくら

大島桜はマダマダつぼみは固くやまざくらももう一步の感じだが場所によっては二分、三分咲きといった所だがオオカン桜は満開でした。(写真は山桜)

又尾根道の入り口ではミツマタ、シナレンギョウ、シデコブシが色鮮やかに満開。今回は尾根道を延長した大コナラの道を初めてコースに取り入れ山桜の見える斜面をバックに大きなコナラは見事でした、又散策路からは樹木の整備

の際剪定した枝や幹を一箇所に集めた(B I O , N E S T)なるものが所々にみられ生物の住家にも成るそうで参加者の皆さんも興味を示しておられました。

* 昼食は夫々自分のお気に入りの場所でとり時間的に余裕がありましてゆったりとしたお昼に成ったようです。

* 午後よりは君津の森にバスで移動天気はますます増す快晴、君津の森の入り口は右手は手入れの行き届いた内山グリーン左手は手が入っていない雑木林、春は益々その対比が面白い。木ブシ、黒文字は満開で豆桜はピーク過ぎ。

* 最終コースは内山グリーンに戻り(マグノリアの小道、英国庭園を回る、ここでの桜はかすみ桜、大寒桜でかすみ桜はまだこれからだった。50種のマグノリアは参加者も大満足の様子で質問も多く関心が高かった。(英国庭園を説明する小池チーフ)

今回は内山グリーンさんのご協力に感謝です。

(報告:小林)

平成17年度第2回実地報告
~ 妙楽寺・大多喜県民の森 ~

実施期日 平成17年6月11日(土)(天候:曇り一時小雨)

目的地 妙楽寺の森(長生郡睦沢町妙楽寺) 大多喜県民の森

受講者数 52名

スタッフ チーフインストラクター: 広畠、望月/アシスタントインストラクター: 桐山、関、高橋。 オブザーバー参加: 田中

【日程概略】

8:20 参加者集合(千葉駅東口NTT前) バス乗車、

8:30 同所出発。車中にて妙楽寺、県民の森等について解説、道の駅にて休憩。

10:15 妙楽寺到着、現地集合者合流、班分け(4班) 妙楽寺の森の観察

12:20 同所出発。

12:40 大多喜県民の森到着、昼食。

13:20 マツクイムシについてミニ講義の後、県民の森遊歩道ハイキング

15:00 同所出発。道の駅にて休憩。

17:15 千葉到着、解散。

【概要】

(1) 妙楽寺では、同寺院の文化財や歴史を紹介するとともに、以下の4つの点にポイントをおいて観察した。なお、参加者の関心が高く、各観察に時間を要したため、同所出発時間が予定より50分遅れた。

スタジイ極相林: 同寺院男坂の下より森林内部を眺めて、階層構造が発達した景観を観察した。続いて女坂を登りながら、林床のホソバカナワラビをはじめとするシダ類、低木層のイズセンリョウ、亜高木層のカクレミノなどを観察した。また、高木層を構成するスタジイやモミ、スギなどの巨木を観察し、極相林が成立するまでの時間の流れや植生の変化、人とのかわりを考えた。

寺院の樹木: 植栽木であるボダイジュ、セندانバボダイジュと、仏教に関係するインドボダイジュ、日本に自生するオオバボダイジュとを比較し、人や環境とのかわりについて考えた。

林道沿いの植生: 寺院裏手の林道を歩き、アカメガシワ、カラスザンショウ、ミズキなどのパイオニア樹木や、ウツギ、コクサギなどのソデ群落の特徴と環境を考え、極相林の様子と比較した。

季節の自然: オオアリドオシ、ホタルブクロなどの開花。ヤブコウジ、タブノキなどの新葉。ホイチゴ類などを観察し、楽しんだ。

(2) 大多喜県民の森のハイキングは、到着が大幅に遅れたことや、帰りの時間などを考慮して、予定より1時間ほど短縮して行った。尾根筋のマツ類の状況や関東以西の分布とされるテイショウソウ、開花真っ盛りのヤブミョウガ、マツボックリのリスの食痕、ウリカエデの結実、アワブキの開花などを観察した。

【今後に向けて】

(1) 個人情報の管理と参加者の掌握について、以下のとおりスタッフの共通意見として挙げたい。

参加者名簿の使用、携行に際しては、個人情報保護法に対する配慮が必要である。

相互のコミュニケーションを円滑にするとともに、事故発生時等の参加者の掌握のために、

本人を確認する方法(名札やそれに類する方法)を講じることが望ましい。

(2)房総の森林の魅力について

今回のテーマやフィールド、この季節に対する関心が低いことが予想された。案の定、参加者の募集は順調とは言えなかった。しかし新聞掲載による再募集などで、結果的には予定を超える参加者数に達した。解散の際には「たいへん楽しかったです。」等、多くの好評の言葉をいただくことができた。

房総丘陵は低標高であることが幸いして、雨でも森歩きをするには比較的条件が良く、その季節、気象ならではの楽しみ方がある。いずれの季節に限らず、房総の森林や四季の魅力を引き出し、それらを多くの人々に伝えることに力を注いでいきたい、との思いを新たにしたい。

(報告：望月)

君津の森 (担当幹事：小林)

君津の森5月の活動報告

とき 5月18日(水) 10時~14時
参加者 國安、菅野、和波、増田、山口、桐山、小池(敬称略) 小林 8名
活動内容 ビオネスト作り、笹刈り

今回の活動作業は今までの作業で溜まった残材(アズマネ笹、アオキ)を囲いを作りその一箇所に集め片付けも兼ね小動物の棲家としての役割ともなる(BIO NEST)作りを行いました、これは内山グリーン(株)で野外講座(花逍遥の会)の下見時に小池さんより説明聞き参考にいたしました。

小池さんの指導の基作業に入りカケヤで杭を数本打ちその杭に編む様に横木を置いて形を作ってゆく。斜面の下部にダムのように柵を作るために思ったよりも多くの残材が入り周りが見る見るきれいに成り作業効率も数倍のアップとなる。その為か参加者より(今日が今までの作業で一番仕事をした気分だ)とのコメントがありましたが実際にそのトウリの効率です。

今後このBIO NEST作りは作業と同時並

行で進めてゆきたいと思っております。

また(サイハイラン、チゴユリ、エビネ)群生地の変化をも観察して行きたいと思っております。(報告：小林)

君津の森6月の活動報告

とき 6月15日(水)10時~14時(雨)
参加者 國安、和波、小池、増田、山口、桐山(敬称略) 小林 7名
活動内容 ビオネスト作り、作業道の刈払い、今後の活動検討

君津の森に着く頃に雨がぽつり、ぽつり今日の作業活動はいやだな~と思いつつ森に着くと既に小池さん、増田さん、山口さん作業の準備中(やる気だな)***早速準備を終え山の神へ。

小池さん、山口さんは作業道の刈払い他メンバーは先回と同じビオネストの二箇所目作りを開始する。雨がマスマス激しくなりヘルメットに当たる林内雨の音が大きくなるが負けじと頑張ったが終にギブアップ。時間は11時20分。頭から足元までずぶ濡れの状態(パンツまで)早速ガーデナースハウスに避難する。小池さんの入れてくれた熱いコーヒーをすすりながら(群集と群落の違い)の議論となり結論は出さず会長一任とする。

今後の活動については作業一辺倒(体育会系)ではなく多少勉強の場面も(文化系)在っても良いのではないかと思いますので7月、8月はこの要素を取り入れ進めて参ります。また土曜、日曜も活動日をセットしたいと考えてまいります。(報告：小林)

三井物産亀山の森の下見報告

6月18日(土)亀山湖物産の森の下見、踏襲を実施いたしました。メンバーは和波さん、増田さん、桐山さん、小林、物産(株)の西井さんの5名でスタート。今回物産の方で各コースに名前を付けて頂きました。

4月23日踏襲コースは*(ワイルド、コース)今回は(山林入口)の左側のゲートより*(林間コース)に入り大ツガの丘でワイルドコースと

合流しすぐに左折して* (山の神コース)の下り、見晴台、山の神を經由して山林入り口に戻るコースで約1時間半の工程です。

やはりこの時期は山ビルの季節でメンバーほとんどが取り付かれる、取り付かれ1位は西井さん、2位増田さん、小林、和波さん、桐山さんの順位でした。(ヒルが怖くて千葉の森が歩けるかとメンバーのやせ我慢の声)

林間コースは起伏はそんなに無く杉、ヒノキの人工林が続き手入れが十分にされ時折大きな穴があり西井さんによると昔の炭焼きの跡との事でした。途中で平坦な場所が在り何かのイベントに使える、西井さんも同じ事を話しており今後が楽しみです。

山ノ神コースは下りでしたがかなりキツイ勾配で一般の方には少々キツイ感じですが見晴台(物産の森唯一)からの眺めは一杯欲しくなるホドです。山の神に寄り御礼をした後は急な下りとなり一度沢に降り沢をジャブジャブと数メートル進みそして上り、変化に富んだコースに行く。そして又杉、檜の人工林となる、林間コースとは違い下木が多く黒文字、榊、ヒサカキ等の人工林と良くマッチした美しい森に見えました。

昼食の後君津道の駅で西井さんともども今後の展開などを話し合い2時頃に散会。

当日確認 毒ウツギの実(3大毒の1つ、他2つは?)、銀竜草、一葉草(何の薬?)、テイカ蔓満開(赤い葉があるのは?)、ウメガサ草、ほうきたけ?(食べられる?)、白い葉のマタタビ(花の咲くころなぜ?)

(報告:小林)

森林療法 (担当幹事:佐山)

里山フェスティバル

5月18日(水) かずさアカディミアパークで行われました「里山フェスティバル」の森林療法につきましてご報告致します。

集合:9:00 かずさ第2公園駐車場

スケジュール確認・分担確認
現地地下見

実施:10:00 開始

POMS・唾液アミラーゼ測定
散策・ストレッチ指導(30分)
林内で座り、森を感じる(20~

30分)

POMS・唾液アミラーゼ測定
POMSデータ計算

解散:13:00 参加者は昼食後「下刈り体験」
参加者数:33名

POMSテストは、簡易型(65項目 33項目へ)で実施。唾液アミラーゼは、ストレスが大きいほど数値が高く出る。ハンディな測定器(スティック型ろ紙)で測定感想

不慣れた測定器を使用しての計測には思いのほか時間がかかってしまったので予定スケジュールをこなすことが大変でした。また、途中で小雨が降り出し、バタバタしてしまいました。

参加者の方は、森林ボランティアの方が大勢でしたので、少ない林間散策でしたが、専門的なお話や、樹木・林床植生などについて話がはずみました。

唾液アミラーゼ計測結果(おおよそですが)では、開始前より、実施後の方が数値の下がった方が多く、やはり、森林効果はあったようです。

この経験を次の実施・検証に生かしていきたいと思っております。

(報告:佐山)

森林セラピー国際シンポジウム

6月18、19日、明治神宮・参集殿で開催されました「森林セラピー国際シンポジウム」に参りましたので、概略をご報告致します。

18日午前中は、ワークショップとして「カウンセリング」が行われ、被験者としての初体験をしてきました。神宮の森を散策しながらの自己カウンセリング(悩み?を見つめ、解決策を見出す)と、ディスカッション、POMS的な気分調査が行われました。

18日午後は、セミナーで、上原先生の報告と森林総合研究所の発表として、最新の情報を伺いました。昨年春の森林セラピー研究会の発足時より、日々実証事例が増え、「森林の効用」が

検証されていると実感致しました。(千葉森林研究所の総谷研究員も発表されました)

翌19日は、国際シンポジウムで、ドイツのクナイプ療法の実例、韓国での脳活性から見た森林効果の研究、昨秋の京大調査結果報告(東大演習林)などの報告が行われました。

7月より、県の事業も再始動することと思えますので、未経験でも関心のある方は、今後の活動に是非ご参加ください。関連情報、県の受託活動等随時MLにてご連絡致します。

(報告：佐山)

平成17年第1回 子ども自然教室 in もばら
「春の自然と遊ぼう！」報告

平成17年4月24日(日)午後1時~4時

会場：茂原公園

参加者：子ども(4歳から小4年生)30名、大人12名

スタッフ：計11名(FIC：吉埜、萬實、椎、名高橋陸夫、藤田、望月、6名、・茂原自然大好きクラブ5名)

【日程】

12:30 参加者受付

13:00 集合、オリエンテーション、
ネイチャーゲーム「はじめまして」
同「ノーズ」

14:15 おやつタイム

14:30 「散策とネイチャービンゴ」

15:30 おやつタイム「野草の天ぷら」

16:00 閉会

【内容】

天候に恵まれ、4歳の小さな子から小学4年生まで、異年齢の多くの子どもたちの参加があり、保護者同伴も多くて、楽しくにぎやかな子ども自然教室になった。

アイスブレイキング「はじめまして」は、吉埜さんが、春の代表的な花のタンポポを取り上げながら進めていった。また、昆虫や花の写真をを使い、クイズ形式で子ども達の関心を高めた。

2つ目のアクティビティ「ノーズ」は、^{ばんみ}萬實さんが担当した。どの子どもたちも一生懸命に考

えている様子だった。

おやつタイムの後の「散策とネイチャービンゴ」は、参加者の子ども達を小グループに分け、FICメンバー1名ずつが各班のリーダーとなって行



集 合



「はじめまして」

動した。子ども達にとっては、散策は探検につながり、いろいろな物を見つけたり、触ったり、匂いをかいだりと、視覚、嗅覚などの五感をいっぱいはたかせて、探検をしながら自然を楽しんでいる様子だった。

最後に、茂原自然大好きクラブスタッフが用意したタンポポの花やヨモギの天ぷらを試食した。「癖がなく思ったよりおいしい。」「食べられるとは思わなかった。」などと言った感想が聞かれた。子どもの中には、「もっと食べていい?」といくつも食べていた子もいて、たいへん好評だった。

閉会后、関係スタッフで振り返りを行った。後半の散策のグループ行動で、年齢による体力差が顕著に現れてまとまりがなくなってしまったことが今後に向けての課題となった。おおぜいのスタッフで取り組んだことによって、スタッフ自身も参加者も安心感や充実感を共有することができたことは、今回の大きな収穫だった。参加者の子どもたちにとっては、普段の生活では見逃してしまうようなことや体験できないことに興味を持ってくれた様子で、たいへん有意義であったと思う。(報告：望月)

平成17年第2回 子ども自然教室 inもばら
「雨の季節・森のはたらき」報告

日時：平成17年6月19日(日)午後1時から午後4時まで

会場：やすらぎの森(睦沢町、教育の森)

参加者：子ども(4才~小3年生)27名、同伴保護者17名、

スタッフ：FIC アクティビティ指導：御須、望月。同アシスタント：椎名、萬實、藤田(浩二)、依田。茂原自然大好きクラブより9名。合計15名。

日程と内容：12:30 参加者受付

13:00 開会、日程・注意事項説明、スタッフ紹介、準備体操

13:20 ネイチャーゲーム「カモフラージュ」(2コース、御須・望月)

14:00 森のしくみと雨の話(紙芝居方式、依田)

14:15 おやつタイム

14:30 森の探検と生き物さがし(探検・散歩2コース、全スタッフ)

15:40 ふりかえり

16:00 閉会

子どもたちの振り返りシートより

回答数25、一部意味不明文字、お絵書き含む。

1.【楽しかったこと】(回答23)「ジャングルに行って楽しかった」「きびしい道を探検した」など、森の探検についての内容が目立った。虫を捕まえたことについての記載も多かった。ネイチャーゲーム「カモフラージュ」は、子どもには人気の高いアクティビティだが、今回は、森の探検や生き物探しのインパクトに負けてしまったようだ。

2.【初めて知ったこと】(回答18) 昆虫の名前を知ったことが多かったが、少数回答として「キツネノボタンが毒を持っていること」「シ

ダはジメジメしたところに生えていること」「リスがマツボックリを食べたこと」「ウサギのふんは乾いている」「森にいたミミズが太かった」「土がやわらかいこと」など、多義にわたっていた。

3.【残念だと思ったこと】(回答19)リスやウサギ、昆虫やマムシなど、生き物姿が見られなかったことが多かった。

4.【心に残ったこと】(回答15)「虫をつかまえられた」「ミミズにさわられた」など、生き物体験に冠する記載が多い中、「一生懸命森の道を歩いた」「食べられるキノコを見つけた」「色んな子に会えた」などといった記載もあった。

スタッフ振り返りより主な内容

1.【子どもたちの特性について】子どもたちをまとめづらい場面が複数あった。

元気、自然への興味、非日常が故の開放性などが理由で、いずれも子どもたちの本来の姿であり、それを引き出すことが目的でもある。押さえつけるよりも、指導技術を磨くとともに、スタッフの適正配置と子どもたちへの配慮を心がけたい。

2.【プログラムについて】終始子どもたちの反応はよく、特に、下見の際コースの安全性について最も危惧した森の探検は、子どもたちにとって最も印象が強かったようだ。また、森の探検の中で、

事前の森のしくみと雨の話を覚えていて、土がやわらかいことを確かめる姿も見られた。季節性を重視して、森のしくみや雨の行方をテーマとしたのは良かった。しかし、幅が広すぎて全体として時間不足だった。2回に分けるか1日の展開とするのが望ましい。

3.【安全確保について】広場から森の中、開けた農業用水池周辺へと、フィールドの条件が様々で、幅広いプログラム展開が可能だった。また、保護者やスタッフの人数が多くて安心感があった。しかし、森歩きで前後の開きが出てしまった後で、水辺での生き物さ



森のしくみと雨の話



がしとなって先頭付近の子どもたちは一斉に散ってしまった。その時点では、スタッフの目も手も及ばなくなってしまう、事故発生時への体制が十分とは言えなかった。幸いにして無事故だったが、場面の变化に伴う適切なスタッフ配置や先を見通したスタッフ配置が必要である。

4.【最後に】 プログラム展開やスタッフ配置など、さらなる充実を課題として残した。しかし、全ては、森林への理解を深めるとともに、自然の中での子どもたちの生き生きとした姿を引き出すためにあることを、スタッフ一同実感として共有し、今後の可能性の手ごたえを感じることができた。(報告：望月)

ちばし手づくり環境博覧会 報告

主催：2005 ちばし環境フェスティバル活動発表実行委員会

参加団体：企業 10 団体。民間団体 24 団体

来場者数：4～500 名程

FIC ブース出展スタッフ：海野、萬實

テーマ

- ・市民活動団体・事業者・行政・その他団体間のパートナーシップの構築を図る。
- ・各団体の環境保全活動の展示発表。

進行

- ・9：30～11：00 受付、設営
- ・11：00～2：00 展示発表
- ・2：00～ 撤収

備考

- ・展示エリア 長机 1 つとその後ろの壁面 (2m四方)

展示内容

- ・FIC の PR 文と 17 年活動予定一覧、16 年活動実績一覧
- ・FIC の活動を紹介する写真などの展示 (撮影、寺嶋、萬實)
- ・森林インストラクター紹介のリーフレットと

FIC 紹介のチラシ

- ・資格試験関係資料 (資格試験・講習案内、過去問題集購入申込書、試験要項見本、講習会テキスト)



- ・書籍、クラフト類の展示 (図鑑、「森林インストラクター入門」、石井さんの本など)

レポート

6月の千葉市の環境月間に合わせ、毎年ちばし環境フェスティバルとして行われていたイベントが、今年度より参加団体数を大幅に増やし「ちばし手作り環境博覧会」として開催される事となり、FIC の日頃の活動 PR 並びに参加団体との交流を図るため出展しました。

出展団体を活動内容で分けると、環境学習関係 4 団体、温暖化問題 7 団体、廃棄物・リサイクル関係 10 団体、自然保護 12 団体、食の安全 1 団体になります。

展示内容としては、企業ブースでは東京電力がビオトープそがを紹介、東京ガスが燃料電池ハウスを紹介、住宅メーカーが珪藻土を紹介し、民間の団体は、手作りの活動を紹介する内容の展示でした。

FIC のブースで直接お話できた来場者は 20 人ほどで、用意していたリーフレットは 17 通ほどお持ち帰りいただけました。

今回の FIC の展示では、配布物などが試験関係のものに偏ってしまったため、高齢者中心の来場者から試験というだけで難しそうだと尻込みされてしまいました。(千葉県会の紹介は壁面展示に限ってしまったため、あまり PR 効果はあまりなかった様子です。)

高齢者層に対しては講座参加を呼びかけるほうが PR になるようで、各講座の案内などの配布物があれば良かったようです。

今回のようなイベントに参加することは、FIC や森林インストラクターの PR 活動としてだけではなく、FIC の会員の意識を高め、活動により方向性を持たせられるといった効果があ

ると思われます。

また、出展の度に展示物を作るのではなく、いつでも簡便に対応できるパネルなどが用意されていれば良いのではと思います。

より PR 効果を高めるのであれば、来場者の注意を引くような展示の工夫や、お楽しみのおし物も用意するといいと思いました。(東京会の「木の名前」のようなクイズや木の実・木の葉カルタなどのゲーム類)

FIC 制定の千葉県会紹介チラシ(今回作ったものでも、新たに作ったものでも)を HP に持たせて、会員が自分でプリントアウトできるようにすると、何かと役に立つのではと思います。

(報告:海野・萬實)

今後の予定

質問等は、直接担当幹事が講座事務局に。

【総合学習事業】

- ・ 滝野中学学習林見回り(下見):7月28日
10:00~ 滝野中学
- ・ 滝野中「環境(里山)学習」17年度後期:
11月(日時未定)
- ・ 本埜村秋の里山観察会:10月22日9:00

【昼の講座】

後期の日程は、14ページをご覧ください。

講座の予定、下見の予定、アシスタント協力をお願いなど随時MLで送信しますので、ご協力をお願いいたします。

【子ども自然教室】

『第3回こども自然教室 in 茂原』

1. タイトル 夏の夜の昆虫ウォッチング
 2. 日時 8月21日(日)18:30~21:00
 3. 場所 ひめはるの里(茂原市)周辺
 4. 内容 昆虫さがし、星の観察、夜のネイチャーゲーム など
 5. 対象 小学生20名程度と保護者
 6. 集合 ひめはるの里駐車場 18時30分
 7. 持ち物 懐中電灯、敷物、虫あみ、虫かご、バングナ、虫除け、動きやすい服装・運動靴
- 詳しくは望月さんにご確認ください。

野間元彦さんのご逝去を悼みます



F I C 君津の森でご活躍のありし日のお姿

野間さんのご逝去を悼む

千葉県森林インストラクター会会長 國安 哲郎

今わたくしの手もとに、野間さんが当時17名の仲間に発した平成6年11月28日付けの「北総の里山観察&懇親会ご案内」というお便りがある。まさに千葉県森林インストラクター会(FIC)が組織的な活動を始めた記念の文書とも言えよう。

FIC を立ち上げた初代会長としての功績もさることながら、黙々と FIC 君津の森の作業に取り組み、里山学習の中学生に大もての在りし日のお姿など、森林インストラクターとしての一貫した情熱、誠意、行動は、「心技体」一致の手本でもあった、と今更のように思い返している。

まさかの急逝に組織としてもぽっかり穴の開いた状態であったが、葬儀にあたり奥様から FIC での思い出を述べてほしいというお話があったとき、野間さんの FIC に対する想いの深さをあらためて感じたものである。

野間さんからは人生の生き方ばかりか終わりの方も教わったような気がする。このうちは「FIC の皆もなかなかやるじゃない」などと ML あたりひょいにご感想をいただけるように、日ごろの努力を積み重ねて行くことをお誓いして、ご逝去を悼む言葉に代えたい。

天国の野間さんとFICの皆様へ
寺嶋嘉春

5月3日・4日の、千葉市弁天の常光閣での「野間元彦氏を送る会」に出席しました。私は、森林を通して野間さんと20年にわたるお付き合いをさせていただきました。森林インストラクターの試験を受けようと誘って下さったのも野間さんでした。野間さんにはFIC初代会長をお願いしました。

野間家の菩提寺は、大阪池田の浄土真宗の寺であり遠いため、御住職にはお願いせず、今回は読経無しで参加者による送る言葉を主体とした会でした。野間さんが生前に御意向を示したとおりに行われました。野間さんらしい、熟慮を重ねた上での場所 形式の会でした。FIC第三代会長國安哲郎氏の暖かい追悼の辞も、野間さんが予想していたとおりのかもしれません。

昨年8月末に、余命半年との診断があったから、皆様ご存知のとおり闘病生活を宣言され、野間さん御自身が信じるあらゆる療法を実践し、充実した一日一日を過ごされてきたとのこと。奥様のお話では、4月1日に「闘うことは止める」と言われてから、日々目に見えて衰弱されていたとのこと。

辞世の句として、願わくは 新緑の下にて 夏死なむ 5月の空 薫風のころ」と観覧されたこと、御実姉から紹介がありました。

野間さんは、昨年の3月、千葉県森林インストラクター会のメーリングリスト上で、以下のとおり、西行法師の歌を話題にされました。

FICの皆様

野間です。旧暦に関して、日頃の疑問にどなたかご解答下さると有り難いのですが。

有名な西行法師の歌「願わくは 花のしたにて 春死なん その如月の 望月のころ」の花はヤマザクラを指すと思いますが、旧暦2月15日はとても花の咲く時期ではありません。先日のおちゃん情報のように閏2月の15日なら新暦4月5日頃ということになってヤマザクラが咲く可能性はあります。

但し西行の生きた1100年代は寒冷期であったと言われるので4月5日ではまだ咲かないかも知れませんが。また、閏月は19年に7回の割合で設置され、どの月に閏月を置くかは一定ではありません。従って、上記の歌の如月が閏如月であると解釈するのは無理です。一般にはサクラは弥生を代表する花と思われまことに、如月と歌ったのは

何故でしょうか。それともこの花はウメを指すのでしょうか。より昔にはサクラよりウメを愛でる時代があったようですが、平安末期の西行の時代なら花といえばサクラを指すと思われます。(野間元彦)

ML上で広島真知子さんが1999年の読売新聞の引用を示され、当時の暦の会会長の説明を紹介されました。西行が望んだのは、実際にはありえない、満月 花 釈迦の命日という三位一体の理想の日に死にたいという想像の世界であろうとのこと。

野間さん「如月の桜は不自然であるが、それを西行が夢想 願望したと思う」と返信されました。このとき癌の予兆があった訳でもなく、野間さんは何も差し迫ったことは無い中でのメールのやりとりでした。

野間さんは、西行のこの歌に似せて、差し迫ったその日のため、毎月一句ずつ、歌を残されたとのこと。

最後が「願わくは 新緑の下にて...」と、野間さん流の三位一体の理想を込めた歌を残し、5月1日午前0時13分に御自宅で御家族に見守られて逝去されたとのこと。

あまりにも早すぎる旅立ちでしたが、野間さんが思うところに従った人生を送られたことを御家族の皆様も確信されているとのことでした。

連休中にも関わらず、会場の椅子の数をはるかに越える多くの方々が参集され、野間さん御本人の意向により、東京大学柔

道部の部歌の中、旅立たれました。享年65歳でした御冥福をお祈り申し上げます。

つい先日、奥様から法要と納骨の御挨拶をいただきました。

菩提寺からの法名は、敬徳院釋宝樹。

樹を愛し、森を愛し、自然をこよなく愛した野間さんにふさわしいと思います。

合掌

千葉県森林インストラクター会会報

2005年7月1日 発行第13号

年4回発行予定(1月・4月・7月・10月)

発行人：國安 哲郎

編集スタッフ：鳥海 翔

連絡先(國安)：千葉県柏市藤心 5-5-8

TEL&FAX：0471-39-9421 〒277-0034

Eメール：t-kuniyasu@jcom.home.ne.jp

http://www.chiba-shinrin-instructor.com